様式3

学 校 番 号

50

令和 4年度　学校評価書　（計画段階・実施段階）

福岡県立　早良高等学校

自己評価

学 校 運 営 計 画（4月）

学校運営方針			評　価（総　合）
昨年度の成果と課題	年 度 重 点 目 標	具 体 的 目 標	
学校満足度調査では、すべての項目（学習、進路指導、学校行事、部活動、クラスの雰囲気）において、満足度が上昇した。特に、「進路指導」の満足度が全体的に高かった。これは、進路ｶﾞｲﾀﾞﾝｽや二者面談など教員が生徒に寄り添い、生徒と一緒に進路について考える機会を増やしたことが調査結果にあらわれていると考えられる。 学習面では、授業改善を学校全体で進めた結果、アンケートで満足傾向にある生徒が8割を超え高い結果となった。特に、学校設定教科「早良リンクス」は教材や内容の見直しなどにより満足度の伸びが顕著であった。 オイスカ西日本研修センターと協定を締結し、地域貢献実習やボランティア活動の充実を図ることができた。 安心安全な学校づくりを土台とし、学習のみならず様々な場面で生徒個々の主体的な取組みや挑戦を引き出す場を多く準備し、本校が掲げる「生徒たちが幸せな社会人として生きていける力をつける」ための取組をより一層充実させたい。	（1）人権教育と心の教育を推進し、いじめ、差別、暴力を絶対に許さない安心安全な学校づくりに努める。 （2）ユニバーサルデザイン、アクティブラーニング、ICTの活用等による授業改善、観点別評価の効果的な活用等により、生徒の学ぶ意欲と学力を向上させる。 （3）目標を明確にした多彩なセミナーを実施し、チャレンジ精神を育み、自信をつけさせる。 （4）「早良リンクス」の充実に注力し、定期的にその成果を検証する。 （5）振り返りの場を多く設定し、具体性に富むポートフォリオを積み重ね、進路実現を図る。 （6）部活動、生徒会活動、学校行事、地域行事等への積極的な参加を促し、周りと協働する体験を積み重ねることで、課題解決能力を高める。 （7）学習はもとより、様々な教育活動において、実現可能な目標を明示し、達成感の積み重ねをとおして、自己肯定感を高める。 （8）SC等の外部専門家を活用し、個々の生徒の指導と支援の充実を図る。 （9）進路実現100％を目標に、生徒の個別指導を充実させる。 （10）成年年齢の引き下げに伴い、政治参加の重要性や契約、消費者保護の仕組み等の教育を充実させる。 （11）競技力向上、スポーツ・地域貢献活動実習等の充実により、スポーツコミュニケーションコースの魅力を高める。 （12）特進プロジェクトを中心に、大学等への進学を充実させる。	・学校満足度調査を指標とし、教育活動の検証を行い改善充実を図る。 ・ICTを一層活用した授業改善を推進し、授業アンケートの評価を用いて検証する。 ・オイスカ西日本研修センターを含めたボランティア活動を充実させ地域活動を活性化させる。	

評価項目	具体的目標	具 体 的 方 策	評価（3月）			次年度の主な課題
教務部	生徒の学ぶ意欲と学力の向上（授業アンケート満足度90％（「4はい」と「3どちらかといえばはい」の合計）	ChromebookやGoogleアプリ（Classroom等によるオンライン学習やアンケート、Jamboardによるペアワークやグループワーク、小テスト等）の活用による更なる授業改善を推進する。				
	生徒との教育活動の時間を増やすための業務の見直しやICT化の推進	業務分担の均等化や、校務支援システム、Classroom、Teamsによる業務（成績処理、行事の反省集約や連絡、アンケート等）の効率化を図る。				
	令和5年度志願者数の増加（志願倍率1.00倍）	早良フェスタについては、大好評の授業体験に部活動体験やスポコミ体験などを追加することで更なる充実を図り、参加者の入試志願率60％以上を目指す。また、広報戦略室を中心に、パンフレットやチラシ、ホームページなど広報に関する戦略的な取組を実施することで目標達成を目指す。				
生徒部 指導課 保健課 支援課	挨拶・身だしなみ及び正しい言葉遣いの励行	登下校時に生徒昇降口や通学路で継続的に声をかけ、身だしなみ指導をするとともに、定期的にアンケート等を実施し、生徒自身で自己点検できる仕組みを作る。				
	校内美化及びボランティア精神の育成	通常清掃割に加え、週1回特別教室等の清掃を徹底させる。また、月1回程度、ボランティア美化活動を実施し、主体的に活動する機会を設け、生徒のボランティア精神を育成する。				
	いじめ問題の未然防止及び早期発見と、支援を必要とする生徒へ組織的な対応	月1回の学校生活アンケート等を活用し、いじめ問題に早急に対応するとともに、必要に応じてSC等の面談につなぐ。また、支援を必要とする生徒に関して全職員で情報を共有し、特に学習面で支援を必要とする生徒には、教務部と連携し、特別支援教育支援員に学習支援を依頼する。				

学校関係者評価

評　価（総　合）	自己評価は A ： 適切である B ： 概ね適切である C ： やや適切である D ： 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見

進路部	より効果的なセミナーの企画・運営	資格取得セミナーにおいては、検定合格率の周知などを用いて、セミナー受講者を増加させる。また、進学セミナーにおいては、生徒が自分の進路により適した学習ができるよう、選択希望制の講座にする。						
	高専連携による公務員指導の拡充	大原学園を始めとした専門学校と連携し、公務員試験現役合格生徒増を目指す。						
	地域連携活動を充実とより効果的な「早良みらいプログラム」の企画・運営	オイスカ西日本研修センターを始めとした地元施設・企業との連携を深め、生徒の課題発見能力の向上につながるプログラムを実施する。						
1学年	1日あたりの欠席者数を4.0人以下（昨年の1学年からの上昇）	善行表彰を3000件認めて良好な信頼関係を築く。						
		保健室・支援課・教科担任と担任で情報を共有し、SCやSSW、保護者との連絡も密に行う。						
	生徒の道徳心と奉仕の精神を育み、自主性と進路意識の育成	日時等の連絡と意義の理解に努め、ボランティアの参加を年間延べ人数200人にする。						
		特性に合わせた道徳心の涵養を各教科の授業で行う。						
	学習到達度D3生徒の割合の減少とB3以上生徒の成績の維持・向上	学び直しと模試の事前学習を積極的に実施し、内容の定着を図る。						
		模試毎に分析を行い。長期休業中のセミナーを活用し対策を図る。						
2学年	1日あたりの欠席者数4.0人以下、遅刻者数6.3人以下（昨年度からの上昇）	全担任が総合的な探求の時間やHRの時間、朝礼時に教室に入る。						
		教育相談を活用し、情報共有体制を維持する。						
	進学・就職先の選択肢を増やすための取組の充実	総合的な探求の時間等を利用し、上級学校や就職先の情報に触れる頻度を増やす。						
		ボランティアに参加する生徒や資格を取得する生徒を、昨年度より増加させる。						
	学習到達度B3以上の生徒の割合2.2%（総合学力テスト1月）以上、D3の生徒の割合63.2%（基礎力診断テスト1月）以下（昨年度からの上昇）	総合学力テストについては模試分析を行い、その結果をもとに日ごろの教科担当者への報告・連絡・相談を徹底する。						
		基礎力診断テストについては、模試前の事前学習を学年で統一して実施し、その方法も教科担当者間で内容を工夫する。						
3学年	生徒一人一人の「社会人」としての自覚と「自立」意識の高揚	保護者との連携を密にし、遅刻数を前年度より15%減少させる。						
		文化祭、体育祭等の学校行事でリーダーシップ（体育祭リーダー立候補者60人目標）、フォロワーシップを発揮させ、愛校心を育成する。						
	「わかる授業」の実践に向け授業改善の徹底	授業改善を意識するため授業巡回を全職員で行う。						
		生徒の能力に応じた学習内容と個別指導をさらに充実させ、授業満足度の向上に努める。						
	進路実現100%	早良リンクスの満足度「社会に役立つ」を70%を目標とする。						
		生徒の進路希望・成績・出欠状況等のデータを分析し、全員の進路決定を目指す。						
スポーツコミュニケーションコース	本コースの志願倍率1.0倍以上	中学校訪問を、5～6月、10～11月の2期に分けて実施する。						
		各強化指定部活動ごとに、中学生向けのスポーツ教室や訪問指導を実施する。						
	本コースの特色ある活動を通して、地域に愛される集団の育成	ボルダリングやボウリング実習等を実施し、本コースの特色をより魅力的なものにする。						
		小学校での体力テスト補助やオイスカ西日本研修センターでの地域貢献実習を通して、地域に愛される人材を育成する。						
	外部機関との連携の強化と生徒の進路意識の向上	1・2年生の早期から上級学校訪問や出前指導を実施する。						
		オイスカ西日本研修センターとの協力を一層強化し、1学年6回、2学年6回の実習を通して、生徒のキャリアプランニング能力の向上に生かす。						

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・
・
・
・
・

評価項目以外のものに関する意見